

# 夢湧き、夢に夢中

第2号

令和6年5月2日 文責：大谷

## 創造（未来へつなぐ第一歩）

「これまでの（生徒会）活動では、やりたいと思っていた活動があまりできませんでした。だから、今年は、新しいことを創っていきたいと考え、このスローガンを考えました」

令和六年度の南阿蘇中学校生徒会のスローガンが、先日、板東生徒会長から全校生徒と職員に発表されました。とても前向きでポジティブなスローガンを執行部の皆さんが考えてくれたと、やや興奮気味に聞き入ったのは、おそらくわたしだけではなかったはずですが、このスローガンのもとで、南阿蘇中学校がどんな未来を描くか、楽しみでなりません。どうか、思う存分、未来へつなぐ活動を創り出してください。わたしたち教職員は、そんな夢の実現に夢中になる生徒の皆さんを応援します。

ところで、「創造」ってどういうことなのだろうか？

そう思い、手元のスマートフォンで「創造」の「創」という漢字の意味を、まずは調べてみました。すると、はじめに出てきた意味は意外にも「①刃物による傷。」でした（「goo辞書」から引用）。「あれ？何かをつくりだす、とかそういう意味が最初じゃないの」と、やや拍子抜けしつつ次を見ると、「②初めて作り出す。はじめ。」と書かれてあって、ようやく腑に落ちました。

そこで、改めて「創造」の意味を確かめてみることにしました。「①新しいものを初めてつくり出すこと。」だそうです。「創（＝初めてつくり出す）」に同じく「つくる」とを意味する「造」の一字を足して「新しいもの」を「初めてつくり出す」こと、それが「創造」ということなのでしょう。まさに、新しい未来へつなぐ第一歩を踏み出すこととして生徒の皆さんにとって相応しいワードです。ぜひこの言葉の意味を常に問いながら、一步一步未来へ歩を進めていきましょう。

さて、ここまで「創造」について一つ学ぶことができたのですが、ひとつどうしても気になることがあります。それは、「創」の意味を調べた際に、最初に出てくる「傷」のことです。「傷」には「痛い」とか「苦痛」とか、どちらかという負のイメージがあります。「新しいものをつくり出す」ことに、なぜ負のイメージが……。そう思い、以前読んだある本を読み返してみると、こう記されています。

「創業や創作と聞くと、会社を立ち上げたり、美術品を制作したりと、とても華やかなイメージがあるが、実はそこに至るまでにたくさんの方の失敗がある。つまり、創業や創作には、痛みが伴うのだ。」

わたしたちの「創造」にもきっと何かしらの困難が生じるはずですが、しかし、その壁を乗り越えてこそ、新しいものが見えてくるわけで、乗り越えることが実は「創造」そのものなのかも知れません。さて、まず目の前に見えてきた壁は何ですか。みんな乗り越えられそうですか。

「夢湧き、夢に夢中」第2号をお読みいただき有り難うございました。先日発行しました第1号では、「ちょっと字が多すぎて読みにくい」とのご意見をいただき、何とか「読んでいただけるもの」になるよう工夫改善を図りたいと思っておりますが、筆者が拙筆なので今号も「読みにくい」ものとなってしまいました。今後、努力して参りますので、しばしお付き合いいただければ幸いです。